

神奈川県男女共同参画審議会 副会長 松田正樹



国の計画や法律

- 男女共同参画基本計画 (2000年)
- 次世代育成支援対策推進法 (2003年)
- 子ども・子育て支援新制度 (2015年)
- 女性の職業生活における活躍の推進に関する 法律 (2016年4月から)
 - 従業員301人以上の企業や団体に女性管理職 比率の調査や行動計画の策定を義務づけた)
- 男女雇用機会均等法の改正(2017年1月からは マタニティーハラスメントの禁止も)



国の対策や目標

- 社会のあらゆる分野の指導的地位における 女性の割合 30% (2020年)
- 女性(25~44歳)の就業率 77% (2020年)
- 認可保育所の待機児童数 ○人 (おそくとも2020年度末までに)
- 保育士に月額6千円の処遇改善(2017年)
- 男性の育児休業取得率 13% (2020年)
- 液体ミルクの日本への導入の検討開始



神奈川県の計画や条例

- かながわ女性プラン (1982年)
 - →かながわ男女共同参画推進プラン
- 神奈川県立婦人総合センター (1982年)
 - →かながわ女性センター →かなテラス
- 神奈川県男女共同参画推進条例 (2002年)
- かながわぐるみ・子ども家庭応援プラン(2005年)
 - →かながわ子どもみらいプラン
- 神奈川県子ども・子育て支援推進条例 (2007年)

神奈川県の対策や目標

- 神奈川なでしこブランドの認定開始 (2013年)
- かながわ女性の活躍応援団の設置 (2015年)
- 県庁に「働き方改革推進本部」を設置 (2017年2月)
- 県の課長級以上の女性の割合を20%に (2020年)
- 子どもみらい担当局長に女性を起用 (2017年4月) 子どもみらい担当部長には、保健福祉局福祉部長、 産業労働局労働部長、県土整備局建築住宅部長、教育 局支援部長が兼任で入った。
- ■「安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること」に関する県民ニーズ調査の満足度を20%に(2019年)



- 従業員の子ども・子育て支援に取り組む事業者を「かながわ子育で応援団」として認証 (2007年から)
- 県立病院の院内保育施設を地域に開放 (2017年4月)
- 県独自の保育士試験の導入 (2017年)
- 外国人家事代行サービスの導入 (2017年3月)
- 若者労働ハンドブック(2015年作成)を高校へ配布
- 県内の25~44歳の女性の就業率を70.3%に(2019年)
- 県内の議員(919人)へ、クオータ制などについてのアンケートを実施 (「政策・方針決定過程への女性の参画を進めるために(その2)」かなテラス 2017年3月)



- 旧姓(通称)の使用への理解 (保育士や介護福祉士は姓がかわると 登録証を書きかえなければならない)
- 更年期の理解 35歳~59歳の管理職経験者を 含んだ女性659人へのアンケート調査 (ホルモンケア推進プロジェクト 2014年)



■ ためらったことはない 33%

昇進の辞退を考えた 17%

■ 昇進を辞退した 50%

ホルモンケア推進プロジェクト (2014年)



■ ためらったことはない 37%

昇進の辞退を考えた 46%

■ 昇進を辞退した 17%

ホルモンケア推進プロジェクト (35歳~59歳の女性659人への アンケート 2014年)

- モーター4個を使ったロボットカー(プチロボ)を製作し、ボールを運ぶ大会で、初参加の小学5年生の女性が優勝
- 中学生の主張 決勝進出7人中6人が女性 (2016年)
- チアリーディング&ダンス全国選手権大会 (USA Nationals 2017)で県立秦野高校チアリーディング部が優勝 (2017年3月)
- 国際数学オリンピックでフェリス女学院の高校2年生が 日本人女性初の金メダル受賞 (1996年)
- 国際合唱コンペティションバートイシュルで清泉女学院 高校音楽部がグランプリ受賞 (オーストリア 2016年)

- 小学校(2016年)女性校長 32%
- 中学校(2016年)女性校長 13%
- 高校(2016年) 女性校長 17%
- 三浦市議会 女性議員 31%
- 逗子市議会 女性議員 33%
- 山北町議会 女性議員 36%
- 二宮町議会 女性議員 36%

- 鎌倉市議会 女性議員 39%
- 大磯町議会 女性議員 50%
- 葉山町議会 女性議員 54%
- 女性消防団員のみによる初の合同訓練を 実施 (14市町から74人参加 2016年)
- 消防救助技術指導会に初の女性チームが 登場 (秦野消防署 2017年6月)



- 厚木市へ1億円寄付された女性 (厚木市はこれをもとに、採用から3年未満の保育士の奨学金返済用に最大60万円を支給する制度を創設した。2017年)
- 大隅萬里子さん 夫が2016年にノーベル賞を受賞。 大磯町に8年前に移住された。



大隅萬里子さんの言葉

「若気のいたりで、早めに結婚してまったの ですが、勉強はおもう存分できる時代があ ります。きちんと勉強していれば、その後 の人生はかなり違ったと思うのです。私は 勉強することを放棄してしまったのですが、 若い女性はチャンスがあれば仕事をして、 できれば自分の幸せを実らせてほしい。今 はそういう女性が増えているので、期待し ています。」



ご清聴をありがとうございました

皆様の率直なご意見やご提案を うかがわせてください。

今日はどうぞ よろしくお願い申し上げます。